平成３０年３月２９日版

戦争遺産フォーラムくまもと、新老人の会熊本支部「戦争を語り継ぐ会」合同研修会・例会での意見交換の概要

1　意見交換会　　テーマ「ピースくまもとに望むもの」

2　班司会進行・意見集約　１班：戸嵜孝行さん　２班：三隅康資さん　３班：永田　昭さん、
４班：諸隈 征碩さん　５班：上田欣也さん

3　全体進行　①自己紹介
②発表内容への質疑
③この様な活動をしたい　例えば「戦争遺跡見学会、展示会、証言を聞く会」など
④活動で配慮したいこと

4　各班意見　※現況では各班発表・総括をそのまま記載。今後は項目毎に集約

［１班］
・平和への自分の思いを、直接子どもへ伝える難しさを感じる。取り組むきっかけがないだろうか。
・孫世代は、沖縄・長崎・広島への修学旅行等で、平和学習に取り組んでおり、話しやすのでは。
・熊本での戦争の実相をしっかりと学び、子どもへと平和のバトンをつなげたい。
・玉名市有明中学校では、「地域学習・玉名学」で、大浜飛行場戦跡見学や文化祭発表に取り組んでいる。
・若い親も学校の教師も戦争を知らず、熊本で戦争の歴史を知り、平和の大切さを学ぶ場がない。
・満州事変から太平洋戦争に繋がる父親の軍歴を知り、父親の戦争の実相へのつぶやきを耳にした。
・戦時証言を聞き、『零の進軍』を読み、戦争のむごさに何度も涙した。

［２班］
・語り継ぐ会の取り組みのなかでは、壮絶な戦争体験から「体験は出したくない、思い出したくない、口をつぐむ」という現実もある。この様ななかで、例会を１００回超続けてきた。
・戦時中の苦しい事は、思い出したくもない。
・自分の父は決して、戦争の話しはしなかった、死ぬまで語らなかった。
・戦争体験・証言者が減少し、直接話しを聞く機会が無くなりつつある。
・これらの語り継ぐ内容を、「若い人にどうつなぐのか」が、大きな課題である。
・県民運動として広げるため、行政の支援やマスコミの活用が大切で、県民理解が最も重要だ。
・会ＨＰを幅広く有効に活用し、一方では個人のクチコミ等で、人と人がつながることも大切だ。
・北九州市では新たに平和資料館建設を検討し、宇佐市では平和祈念館の建設が具体化している。

［３班］
・拠点となる施設は、訪問しやすい場所が良い。熊本市内が良いのでは。
・県民運動として進めるためには、理想を高く持ち、思いを伝える事が大切だ。
・活動に向けてはＰＲが大切なので、マスコミも利用し、導入としての映画・映像も活用してはどうか。
・関係者の思いを文章にまとめて、発表してはどうか。
・上村さんの資料を熊本に残し、若い世代に活用することが必要。
・菊池飛行場ミュージアムでは、２０歳代から３０歳代の来館者は少ないが、１０代の子ども達の来館は多く、太平用戦争は「過去の歴史」として捉えている傾向がある。
・ピースくまもとのネーミングは、人権運動団体と認識されるのではないか。ミュージアムを前面に。

［４班］
・行政への働きかけが大切だが、「戦争」という言葉を前面に出すと、難しい場面もあるのではないか。
・「戦争の歴史に学ぶ」姿勢が、いま必要だ。
・戦後７０年でのバスツアーの実績があるので、県内、戦争遺跡・遺産の見学会を是非行ってほしい。
・拠点施設は、熊本市内の利便な場所が良いが、遠方からの車利用に対応できるようにしてほしい。

［５班］
・班に参加された元少年飛行兵の方の戦友３８名が亡くなった戦争体験に涙した。戦争への漠然としたあこがれから、戦争の怖さを実感したその思いを、若い世代に伝えることが必要だ。
・上村さん資料や県民からの収集資料は、ある程度まとまった段階で展示してほしい。
・小中学校の廃校施設を有効に利用し、展示品の収容や県内戦争遺跡・遺産の見学拠点としする

［全体総括］
・両会の活動を基盤として、ピースくまもとでの今後活動の貴重な意見となった。
・本日参加された方々が、さらに活動を広げる、集まることが大切だ。
・これまで各会等で取り組んできた活動を、若い世代にどう伝えるのか、ＰＲが大切である。
・戦争遺跡・遺産の見学会に、取り組んでもよいのではないか。
・拠点施設の場所選定が大切だ。